

## 2025年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

富樫 虎太郎が熾烈なバトルを制してシリーズ2連勝を飾る!  
チームメイトの長谷川 蒼馬、戸高 綸太郎もそれぞれ表彰台を獲得!

6月7日(土) 公式予選 10:45~11:05 ◎天候・路面:Cloudy/Dry

#56 富樫 虎太郎 2'21.035/2番手

#19 戸高 綸太郎 2'22.935/5番手

#51 長谷川 蒼馬 2'21.909/3番手

鈴鹿サンデーロードレース第2戦の予選が行われたこの日、空には薄雲がかかりながらも、気温は25度を超え、まさに初夏の陽気といったところ。そんな中、Team HRSの3名のライダーが参戦するJ-GP3クラスの予選がスタート。Team HRSの3名のライダーは集団からやや距離を取り、それぞれ単独でコースインしていく。その中、前回総合優勝を果たした#56富樫 虎太郎が早々に21秒台を叩き出してリーダーボードのトップに立つ。前回富樫とバトルを繰り広げた#19戸高 綸太郎、そして#51長谷川 蒼馬も序盤に23秒台を記録して上位グループに位置づけた。

セッション中盤、富樫や戸高とともに全日本ロードレースに参戦し、今回スポット参戦の#88知識 隼和が20秒台を記録してトップに躍り出る。富樫もセッション終盤にタイムを伸ばすものの、タイムは21秒を切ることができず、2'21.035で予選2位につけた。また、富樫の後方につけてタイムを伸ばした長谷川がシーズンベストタイムの2'21.909で総合3位、単独走行を続けた戸高は思うようにタイムが伸ばせず、2'22.935で5位となった。

『ユーズドタイヤで走っていたフリー走行ではセットも合っていましたが、予選は新品タイヤだったので、フリー走行でのフィーリングに少し狂いが生じてしまいました』(富樫 虎太郎)

『シーズンベストタイムは記録できましたが、トップとは1秒以上の差があります。決勝ではしっかりとトップについていきたいです』(長谷川 蒼馬)

『今日は単独で走り、ペースも安定はしていましたが、タイムはあまり伸ばせませんでした。マシンのセットもまだまだな感じです』(戸高 綸太郎)



2025年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

6月8日(日) 決勝レース(フルコース10周) ◎天候・路面: Cloudy/Dry

#56 富樫 虎太郎 - 総合1位/ナショナル1位/NSFチャレンジ1位

#51 長谷川 蒼馬 - 総合4位/ナショナル3位/NSFチャレンジ3位

#19 戸高 綸太郎 - 総合5位/インター2位/NSFチャレンジ4位

前日とは打って変わり、梅雨入りを目前に控えた空には厚い雲が垂れこめ、いつ雨が降り出してもおかしくはない空模様の中、J-GP3クラスの決勝レースがスタートした。ポールポジションを獲得した知識 隼和がホールショットを決めるが、予選2番手につけた富樫 虎太郎と、予選4番手の中嶋 昂士が知識の独走を阻むべく、その後方につけてオープニングラップを終える。予選3番手の長谷川 蒼馬はスタートで出遅れて一つポジションを落とし4番手、2列目5番グリッドからスタートした戸高 綸太郎が長谷川の後方5番手につけた。

3番手と4番手の間隔は徐々に開き、上位争いは知識、富樫、中嶋の3名に絞られる。その後方では長谷川と戸高がポジションを入れ替えながら接近戦を展開する。

レース終盤にかけて一時富樫がトップに立つが、知識が再びトップを奪い返すなど、トップ争いは激しさを増す。8周目、知識は、富樫、中嶋との差を拓けるべく猛然とスパートをかけるが、富樫もそれに呼応しスパート、知識との距離を縮めていく。そして、9周目には予選タイムを大幅に上回る19秒台のタイムを叩き出して知識を完全にキャッチアップ。迎えたラストラップ、知識の真後ろで130Rを立ち上がった富樫は、日立ASTEMOシケインにアウトから進入、ブレーキのやや遅れた知識のインからトップを奪うとそのまま真っ先にチェッカーを受けた。

なお富樫が最終ラップに記録した2'19.747がこのレースでのファーステストラップとなった。上位3台の後方で接近戦を繰り返していた長谷川と戸高は、0.121秒という僅差で長谷川が先行、長谷川が総合4位、ナショナル3位、戸高が総合5位でインター2位という結果となった。



インタークラス表彰  
(2位) 戸高 綸太郎



ナショナルクラス表彰  
(1位) 富樫 虎太郎 (2位) 知識 隼和 (3位) 長谷川 蒼馬



2025年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書



[50音順]

ナショナルJ-GP3クラス: 予選2位 ◎決勝総合1位(ナショナル1位/NSF  
チャレンジ1位)

富樫 虎太郎(とがしこたろう) 14歳

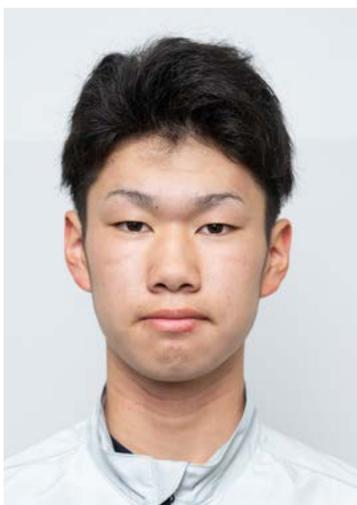
『ポールポジションの知識選手のマシンは直線で速かったですね。決勝では初めて知識選手の後ろについて走りましたが、やはり直線では真後ろについてもじりじりと離されてしまいました。ですがタイムは自分とほぼ変わらず、追いつくことができるコーナーもありました。レース終盤、知識選手が苦手なコーナーがわかるようになり、レースをどのように組み立てていけるかがわかってきました。最後のシケインでは横に並んで知識選手のブレーキを少し遅くすることができて、その間にインに飛び込みました。今回のウィークを通して感じた課題は、序盤にいいラップを刻めないということです。タイヤは時間が経つと悪くなる一方なので、いい状態の時にいいタイムを出さないといけません。この先海外に行って、少ない予選時間でタイムを出さないといけないという時、今のままでは不利になります。今日のレースは走り始めから悪くないタイムが刻めましたが、徐々にタイムを詰めていくというのが現在の自分の走り方となっているため、これからは予選やレースの序盤からいいタイムを刻めるようにしたいと思います』



ナショナルJ-GP3クラス: 予選3位 ◎決勝総合4位(ナショナル3位/NSF  
チャレンジ3位)

長谷川 蒼馬(はせがわ そうま) 14歳

『特別スポーツ走行や予選では単独でタイムが出ていたんですが、スタートでミスしてしまい、一時は7番手にまで落ちてしまいました。そのことがとても悔やまれます。1周目のペースが上げられないということが課題だとは理解していましたが、今回もスタートでミスをしてしまったので、序盤は前を走るライダーのペースに捕まってしまいました。スタートをミスしたことで戸高選手と競ることになり、その間にトップグループがどんどん離れていってしまいました。1周目のスピードが、トップと比べて足りないということが結果に大きく影響しました。スタートを決めてしっかりとトップグループについていければ、絶対に仕掛けられたと思います。次回のレースに向けて、1周目のスピードを上げていくことを意識してトレーニングします』



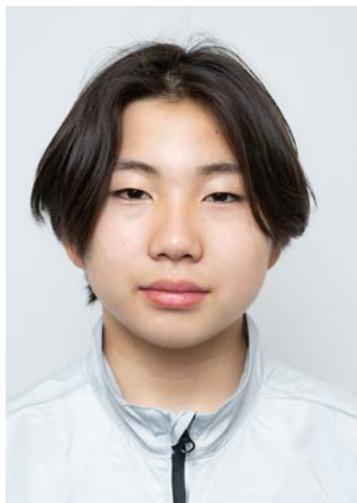
2025年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書



インターJ-GP3クラス: 予選5位 ◎決勝総合5位 (インター2位/NSFチャレンジ4位)

戸高 綸太郎 (とだかりんたろう) 14歳

『今回のウィークはずっと単独で走っていたんですが、思うようにペースを上げられず苦戦しました。決勝でもなかなかペースを上げられず、その間に上位グループに引き離されてしまい、悔しいレースとなってしまいました。ウィークを通して持ちタイムが良くなかったのも、さらに上げられるようにならないといけません。決勝のスタートは悪くはなかったけど、良くもありませんでした。タイムも悪く、他のライダーとも競ってしまったので、上位について行くことができませんでした。単独でペースを上げていくのが苦手なので、そこが課題です。次戦では練習からしっかりとペースを作り、ウィーク全体でもっとタイムを上げて優勝を狙います』



岡田 忠之Principal

『今回久しぶりにコース上で3名の走りを見ましたが、アドバンス担当インストラクターたちの指導もあり、走りはかなりよくなっています。中でも富樫 虎太郎が練習からいいペースを刻めていますね。3名ともタイムを短縮できて、富樫はもう少しでレコードタイムを記録できそうでした。これまでの練習ではマシンをライダーに合わせていましたが、今後は基本的にマシンはいじらない方向で進めていこうとインストラクター陣と申し合っています。後半戦に向けて、どんな状況のマシンでも対応できるようなスキルを身に付けてもらいたいからです。富樫と戸高はこの後も全日本選手権が控えているので、ライディングスキルはさらに上げられるのではないかと思います。また、普段の練習からレースと同じような緊張感を持ち、走っている間にもっと自分を追い込めるようにできるといいですね。いざレースで全体のタイムが上がってくると、マシンには今までに出なかったような症状が発生することもあります。そういった時に冷静に対応できる応用力を育てていきたいです』

